



2025

東京忠恕道院法会

◎ 東京忠恕道院提供

初度法会に参加して
首次參加東京忠恕道院法會有感

※村松大輔

2025年5月24日、心身の不浄が水で流される。初めて法会に参加した時、このような無意識的な感覚を覚えました。

西元2025年5月24日、身心的汙穢彷彿被清水洗滌一空。初次參與法會時，便感受到這種無意識般的體驗。

法会は、蔡點傳師の挨拶に始まり、劉総領導點傳師や陳平常領導點傳師と何點傳師の講説の他、質疑応答、そして、記念撮影・昼食会と點傳師・道親達が一つとなり、学び深く充実し、かつ有意義な法会でありました。

法會由蔡春綢點傳師開場致詞，隨後有劉定文總領導點傳師、陳平常領導點傳師與何春晴點傳師的講述、問答交流、紀念合照及午餐會。在整場活動中，點傳師與道親們融為一體，深入學習，內容充實且意義非凡。

法会は「道を修めるには理を知ること」「初心を忘れずに」を題目に進められ、講授の間、頭上から足下まで、水で清められる感覚に満たされ、過去を思い出します。

本次法會以「修道要認理」、「不忘初心」為主題進行，在講授期間，感受到從頭頂至腳下，宛如被水洗滌的淨化，不禁回想起過往的回憶。

現職中、座右の銘とした「彼一事を為さば我二事も、三事も為ずんば何を以てか彼の上に居らんや」の箴言と、仕事に挫折した時、妻と喧嘩した時、人生の目標に迷いが生じた時に「初心忘れるべからず」が、金句となって今日に至っている事を痛感致します。

在後學任職期間，座右銘為：「若彼能成一事，而後學二事三事皆不能為，則後學何以立於其上？」當在工作上遭遇挫折、與妻子爭吵、對人生目標產生迷惘時，「不忘初心」成了座右銘，這句金言始終指引著後學，深感至今受益良多。

仏教には数多の宗派があり、偉人は彼岸を目指すため、旅（苦難）を通じて知識を得て道を学び、精進し悟りを開いています。私も3つのキーワードが不可欠と考えます。1. 旅、2. 縁、3. 覚醒。

佛教有無數宗派，聖人為了度向彼岸，經歷旅途（苦難）獲得智慧，修習大道，精進修行而開悟。後學也認為，有三個關鍵詞是不可或缺的：1. 旅程；2. 因緣；3. 覺醒。

2年前、福井県永平寺を訪れ、高僧曰く、「欲に従えば迷いの世界、欲の克服には正直であること、自然の生業が真理・法である。」と唱えていました。旅を通じて様々の人と出会い、縁を通じて感銘・感謝、知識を得て、脚下照顧し、自己覚醒を見て、正しい業が呼び起こされます。

兩年前，曾造訪福井縣的永平寺，高僧曾說：「隨欲而行即陷迷惘之境，克服欲望需以誠實為本，自然的運作即是真理與法則。」透過旅程與各式各樣的人相遇，因緣帶來感動與感謝，藉此獲得知識，觀照自身，覺醒內心，也由此引發正念與正業的行動。



▲ 蔡春網點傳師慈悲率眾叩求。



▲ 法會現場道親聆聽法語。

しかし、この3つ事を為して大成するには私一人では無理でしょう。師と同じ志を持つ仲間・道親達が必要不可欠であります。

然而，要完成這三件事並有所成就，僅憑一人之力恐難以達成。必須仰賴與師志同道合的道親們攜手共同扶持，這是不可欠缺。

今後、共に学び共に目覚め、共に実践し「貪瞋痴」を克服、一步でも真の幸福に近づけるよう精進したいと考えています。

未來，期望能與大家一同學習、一同覺醒、一同實踐，共同克服「貪、瞋、癡」，朝向真正的幸福邁進，即便只是一小步，也要努力精進。

結びに、故沈點傳師（坤土）、陳喜樂學長、祖靈、引師蔡秀娟師、保師吳惠寬（妻）に敬意と謝意を表し、一貫道の益々のご隆盛、皆様のご健勝とご多幸をご祈念、暫し沈思黙考して、旅に出ます。

最後，謹向已歸空了的沈坤土點傳師、陳喜樂學長、祖先、引師蔡秀娟學長與保師吳惠寬（妻子）學長致上最深的敬意與感謝，祈願一貫道日益興盛，並祝福諸位道親身體健康、幸福安康。稍作沉思默想後，將再度踏上旅途。

また、ご自身の身の回りの事に加えて道院並びに道親達に対するご尽力に敬意と感謝を申し上げます。

同時，在於處理自身事務之餘，對道院及諸位道親們的付出，謹表敬意與感謝之意。



▲ 莊嚴請壇禮。

法会後の心得 法會後的心得

※石川典子

2002年に東京忠恕道院で得道をいたしました、石川典子と申します。このたび、劉総領點傳師をはじめ、各位點傳師、道親の皆様のご協力により、東京忠恕道院で第一回目の法会が開催されましたこと、心より感謝申し上げます。

後學石川典子，於西元2002年在東京忠恕道院求道。此次，承蒙劉定文總領點傳師以及各位點傳師、道親們的協助，東京忠恕道院得以舉辦首次法會，在此由衷感謝大家的支持與配合。

この法会は、心の不浄や業といった悪しきものを洗い流す特別な機会と聞き、参加できたことに深く感謝しております。

聽聞此次法會是洗滌心中不淨與業力等諸多惡業的殊勝機會，能夠參與其中，深感感謝。

劉總領點傳師のお話からは、神様に対する「真心」の大切さを学びました。見返りを求めず、誠実に心を尽くすこと。その姿勢は、人との関わり方にも通じるものがあると感じました。

從劉總領點傳師の開示中，後學學習到對神明懷有「真心」的重要性。不求回報、誠懇盡心的態度，後學也深深體會到，這樣的心境同樣適用於與人相處之道。

表面的ではなく、思いやりや誠意ある言動こそが神様に通じるものなのだと、改めて気づかされました。神様は常に私たちのそばにいて、困難を「大事を小事に、小事を無事に」と和らげてくださっているのだと思います。

再次深刻體會到，打動神明的並非表面的言行，而是發自內心的關懷與誠意。後學相信，神明時時刻刻都在我們身邊，默默地將困難「化大事為小事，化小事為無事」，幫助我們度過難關。

また、「道理を学び、実践することは料理と同じである」という例えも心に残りました。料理と同様、道も一朝一夕には身につかず、失敗を重ねながら丁寧に積み重ねていくものだと感じました。

此外，「學習並實踐道理就如同做菜一般」的比喻，也讓我印象深刻。就如同烹飪一般，道的修持並非一朝一夕可以完成，而是需要在一次次的嘗試與失敗中，用心累積、細心磨練的過程。

勉強会では、「素食」は食事だけでなく、口から出る言葉も清めることだと学びました。たとえ悪口を聞いても心で受け取らないようにすること。感情をコントロールし、怒りに反応しない努力。小さな怒りを受け流す練習を重ね、言葉で人を傷つけないよう心がけていきたいと思います。

在這次法會中，學到了「素食」不僅是飲食上的清淨，更包括淨化我們口中所說的言語。即使聽到了閒言閒語，也要學會不讓它進入心中；努力控制情緒，不被憤怒牽引。後學希望能透過不斷練習，化解微小的怒氣，養成不以言語傷人的習慣，用心守護自己的口德。



▲ 劉定文總領導點傳師慈悲於線上賜導。



▲ 陳平常領導點傳師慈悲於線上賜導。

何點傳師の「初心を忘れない」というお話では、求道できたのは縁と時の巡り合わせであり、私たち一人ひとりには「業（カルマ）」があり、それを浄化する修業が必要であることを学びました。

在何春晴點傳師開示的「不忘初心」中，學習到能夠求道，是因緣與時機的交會所成。我們每個人都有自己的業力，唯有透過修行與精進，才能逐步淨化這些業障。

また、自分には果たすべき使命があり、その責任を全うするためにこの世に生を受けたのだということ。生きる目的を再認識した今、日々の生活を大切に、学んだことを一つ一つ実践してまいりたいと思います。

此外，後學也體會到，自己之所以來到這個世間，是因為肩負著應盡的使命。當重新認識到生命的意義與目標之後，會更加珍惜每天的生活，並立志將所學的一點一滴，落實於實際行動中。

これからも、仙佛や前賢の方々が遺してくださった經典を、道親の皆様と共に学び合い、切磋琢磨しながら、修道に励んでまいりたいと思います。

今後後學也希望能夠與各位道親一同學習仙佛與前賢所留下的寶貴經典，在彼此切磋琢磨中精進不懈，共同於修道之路努力。

東京忠恕道院の法会後の心得 參加東京忠恕道院法會後的心得

※伊左次リオナ

東京基礎忠恕道院で、日頃の勉強会の北京語から日本語への通訳を担当しております、伊左次リオナと申します。

後學是伊左次莉歐娜，目前負責在東京基礎忠恕道院，將日常學習班程中的中文（北京話）翻譯成日語。

今回、東京基礎忠恕道院で初めて法会が開催されました。劉総領導点伝師をはじめ、陳領導点伝師、蔡副領導点伝師、何点伝師、助理の皆様、壇主の方々、そして道親の皆様、初めての法会開催にご協力くださったすべての方に心から感謝いたします。

此次東京基礎忠恕道院首次舉辦法會，後學衷心感謝劉定文總領導點傳師、陳平常領導點傳師、蔡春綢點傳師、何春晴點傳師、各位道務助理、各位壇主，以及所有協助舉辦此次法會的道親們，感恩大家的支持與奉獻。

私にとって法会への参加は二回目ですが、日本で開催される法会に参加するのは今回が初めてでした。

對後學而言，這是第二次參加法會，但是後學第一次參加在日本舉辦的法會。

今回の法会では、進行の司会を務めさせていただくとともに、劉総領導点伝師や陳領導点伝師のお言葉を日本語に通訳する機会をいただき、大変ありがたく思っています。

在此次法會中，後學有幸擔任操持，同時也獲得機會，將劉總領導點傳師與陳領導點傳師慈悲賜導的內容翻譯成日語，對此，後學深感榮幸與感恩。

法会では劉総領導点伝師、陳領導点伝師、蔡副領導点伝師、何点伝師のお話を聞くことができ、貴重な時間を過ごすことができました。

在法會中，有幸聆聽劉總領導點傳師、陳領導點傳師、蔡點傳師及何點傳師的開示，讓後學度過了一段非常珍貴的時光。

また、質疑応答の時間では、日本の参加者の皆さんが日頃感じている疑問に対してヒントをいただけて、多くの方にとっても大切な会になったと思います。

特に、勉強会で道理を聞いて理解したつもりでも、実際の日常生活で行動に移すのは難しいと改めて感じる良い機会となりました。

另外，在問答交流的時段中，日本的與會者們獲得對平日疑惑的寶貴指引，也讓這場法會成為了對許多人而言非常有意義的一次聚會。特別是透過這次機會，後學再次深刻體會到，雖然在平日的學習班程中聽聞道理時似乎能夠理解，但要在日常生活裡真正付諸實行，確實並不容易。

普段は通訳のために日本語で書かれた經典の勉強をしています。今回臨時で通訳を務めさせていただく中で、自分の勉強の足りなさや進み具合を見直すこともでき、良い経験になりました。

平時，後學主要為了翻譯之需，研讀以日語書寫的經典。此次臨時擔任翻譯工作，也讓後學重新檢視自身學習上的不足與進度，對後學而言，這是一次極為寶貴的經驗。

今回の法会を通じて、後学は改めて、道理は理論として理解するだけでなく、実際に実践することの大切さを深く実感いたしました。特に点伝師の皆様のご開示は、日常生活の中でどのように修道の道を歩んでいくべきかを具体的に示してください、後学にとって非常に多くの気づきと学びをいただける内容でした。今後は、学んだことを心にしっかりと刻み、日々の修行・実践に活かしてまいります。

透過此次法會，後學再次深刻體會到，道理不僅需理解理論的層面，更應落實於實踐之中。特別是點傳師們的開示，具體指引了在日常生活中如何走在修道之路上，對後學而言極具啟發與參考價值。未來，後學必當將所學銘記於心，並落實於日常行持之中。



▲ 感恩點傳師慈悲與前賢們護持殊勝法會。

また、法会の質疑応答の時間は、参加者同士が交流し理解を深める貴重な機会であり、後学はこのような場が今後も継続して開催され、末永く受け継がれることを心より願っております。今回、通訳として参加させていただく中で、言葉の背後にある深い意味を理解し、その精神を正しく伝えることがいかに困難であり、また非常に重要な使命であるかを改めて痛感いたしました。

此外，法會中的問答環節，是與會者彼此交流、加深理解的寶貴契機，後學衷心期盼此類場合能持續舉辦，代代相傳。此次以翻譯身分參與其中，後學再次深刻體會到，要理解語言背後的深層意涵，並正確傳達其精神，實為一項極具挑戰且極其重要的使命。

これからも皆様と一緒に修道の道を歩みながら、日々努力を重ねてまいります。
このような貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

未來，後學將與諸位一同走在修道之路上，並持續精進，日復一日不懈怠。誠摯感謝能有此等寶貴的機緣，衷心感謝大家。